

はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、新しいコーナーを企画いたしました。今後隔号で富士通についてのあれこれをご紹介します。

第一回目は富士通の社名の由来についてご紹介いたします。

1. 富士通の起源

富士通の源流を遡れば、古河グループの創始者古河市兵衛にたどり着きます。

古河グループは1875年に古河市兵衛が新潟県の草倉鉦山の経営を始めたことを起源とし、栃木県の足尾銅山で大鉦脈を発見したことで基盤を築きました。その後、銅製品である電線を製造する事業に進出して古河電工株式会社を設立しました。さらに発電機やモーター等の電気機器を製造するために富士電機製造株式会社を設立します。この富士電機の通信機器部門が1935年に分離・独立し、富士通信機製造株式会社が設立されました。これが現在の富士通です。通信機器以外の売上げが全社売上の50%を上回ったのを機に社名から通信機製造を外し、1967年に富士通株式会社と商号を変更いたしました。

2. 富士 = 古河 + Siemens

富士通は富士電機の通信機器部門が独立したことから付けた名前ですが、富士電機の富士は何に由来するのでしょうか。

富士電機は古河電工とドイツのSiemens社との合併会社として設立されました。社名についてはいくつかの候補があったようです。工場建設予定地の地名から鶴見電機が有力になったこともありますし、時代を反映してか帝国電機製作所を候補としたこともあったようです。

最終的には古河の「フ」とSiemensの「シ」から採り、日本一の山である富士山をイメージした富士電機製造株式会社に決定しました。別の説としては、当時の古河財閥三代目虎之助の奥様の名前（不二子）からという説も社内ではまことしやかに囁かれてきましたが俗説のようです。

また、社章はSiemensの社章にならって両社の頭文字である「f」と「s」を組み合わせた図柄としました。このマークは富士通でも設立時から採用され、長く使用していました。



古河市兵衛



創業当時のシンボルマーク

3. マイニングからインダストリーへ

鉱山から電工、電機、富士通への背景を当時の古河グループ首脳の一であり、富士通初代社長でもある吉村萬治郎は後に、「マイニング（鉱業）からインダストリー（製造工業）へ」と表現いたしました。「当時我々の考えた事はマイニングは次々と鉱山を開発していくという処に事業の発展があるのだが、事業の性質上鉱源に支配されることが避け難く遂にはいくら努力しても最早報いられないという場合が起りうる。処がインダストリーは人間の努力次第でたとえ行きづまりがあってもなおよく打開し進展して行ける。ここにインダストリーをやつてゆく上の妙味があると考えた。その代り之は楽ではない。知恵と勉強と努力の競争に終始する。然し前途に無限の進歩が予想され、努力に努力を重ねて勝抜いていくという処に事業の社会的使命も果され又従業員としての働く者の喜びもあるのだと思う。」（「富士通信機ニュース」創刊号 1953年6月20日号）



初代社長 吉村萬治郎



戦前の広告



戦前の展示会

4. 富士通の歴史見学施設

富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しください。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようお願い申し上げます。



富士通アーカイブズ展示エリア



池田記念室
世界最古級の稼動する
コンピュータFACOM128B



沼津工場の桜並木

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。